

## 1 札幌市文化芸術基本計画の概要

### (1) 計画期間

第4期：令和6年度～令和10年度

これまでの計画  
 第1期：平成21年度～平成25年度  
 第2期：平成26年度～平成30年度  
 第3期：令和元年度～令和5年度

### (2) 計画の策定目的

市民が心豊かに暮らせる文化の薫り高い札幌のまちづくりを目指して、文化芸術に関する施策を総合的かつ計画的に実施するために策定。

### (3) 計画の位置づけ

ア 札幌市文化芸術基本条例(平成19年3月策定)に基づく文化芸術に関する施策に関する基本的な計画

第6条 市長は、文化芸術に関する施策を総合的かつ計画的に実施するため、**文化芸術に関する施策に関する基本的な計画**（以下「基本計画」という。）を定めなければならない。  
 2～5 （省略）  
 6 基本計画は、情勢の変化に応ずるため、**おおむね5年ごとに見直しを行うものとする。**

イ 文化芸術基本法(平成29年6月改定)に基づく「地方文化芸術推進基本計画」

第七条 **政府は、文化芸術に関する施策の総合的かつ計画的な推進を図るため、文化芸術に関する施策に関する基本的な計画**（以下「**文化芸術推進基本計画**」という。）**を定めなければならない。**  
 2～6 （省略）  
 第七条の二 （中略）特定地方公共団体（中略）の長は、**文化芸術推進基本計画を参酌して、その地方の実情に即した文化芸術の推進に関する計画**（次項及び第三十七条において「**地方文化芸術推進基本計画**」という。）**を定めるよう努めるものとする。**

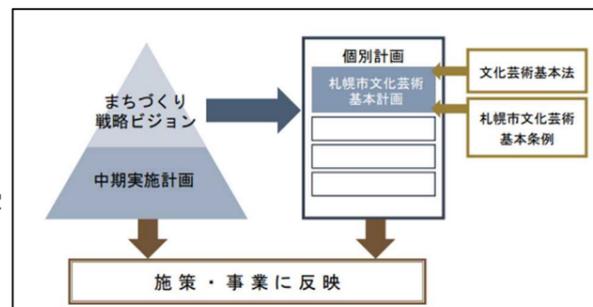
ウ 札幌市まちづくり戦略ビジョン（令和4年度～令和13年度）を受けた個別計画  
 2022年10月に策定された札幌市の最上位計画である「札幌市まちづくり戦略ビジョン」を受けた個別計画に位置付けられる。

#### ○ 基本目標15

文化芸術が心の豊かさや創造性を育み、世界とつながるまち

#### ○ 目指す姿

- ・ 誰もが文化芸術に親しみ、創作や表現ができる環境が整い、多様な価値観が受け入れられています。
- ・ 札幌市ならではの文化が生まれ、世界に発信され、多くの人が集まるとともに、様々な分野との連携によって新たな価値が創出され、まちの魅力が向上しています。
- ・ 文化・文化財を適切に保存し様々な形で生かすとともに、札幌市への愛着を深めることで、札幌市の自然・歴史・文化が未来へ継承されています。



### (4) 現行計画の体系

ステージ	施策	主な取組例
ステージ1 機会の充実	①多様な文化芸術に親しむ機会の提供	◎PMF、さっぽろアートステージ、サッポロ・シティ・ジャズ、札幌国際芸術祭の開催
	②文化芸術のための施設の活用等	◎札幌芸術の森、Kitara、教育文化会館、札幌市市民ギャラリー、市民交流プラザなどの活用
ステージ2 未来への布石、育成、支援	①子どもたちの文化芸術活動の充実	◎幼児や小学生向けの文化芸術体験事業の実施
	②アーティスト等のステップアップ促進	◎アーティスト等に対する活動支援及び環境整備
	③文化芸術をつなぐ新たな役割の育成・支援	◎アートマネジメントの人材育成・活動支援
ステージ3 文化の保存・活用	①文化遺産・自然遺産の保存と活用	◎文化財の保存と活用
	②文化芸術を生かした様々な事業との連携強化	◎文化芸術などを通じた都市間の連携による取組の推進
	③札幌の文化芸術を通じた国内外への魅力発信	◎さっぽろ雪まつりを生かした札幌の魅力発信
ステージ4 視点の検討	①情報発信機能の強化	◎情報発信・共有システムの検討
	②情報の蓄積に向けた調査・研究	◎文化芸術に関するアーカイブ化の在り方の検討
	③将来の文化芸術活動を活性化させるための調査・研究	◎基本計画の推進・評価に向けた取組の検討

## 2 札幌市文化芸術基本計画検討委員会について

- 本委員会については、札幌文化芸術基本計画の見直しに向け、それぞれの委員の皆様の専門的な知見などに基づくご意見をいただくことを目的とする。
- 最終的な計画については、いただいたご意見を踏まえて札幌市で策定を行う。

### ★ スケジュールイメージ



※ そのほか計画の見直しに当たって、事務局において子どもたちや文化芸術団体からの意見聴取、令和4年度に実施したモデル事業の評価検証の結果なども本委員会に報告しながら進める予定。

3 計画の見直しの視点

基本計画の見直しに当たって、本資料において以下の情報を共有する。

- 第3期計画期間の取組の振り返り
- 文化芸術意識調査における計画期間中の特徴的な結果（札幌市調査）
- 文化芸術推進基本計画（国の計画）

(1) 第3期計画の振り返り（詳細別紙1）

ア ステージ1 機会の充実

- PMF やサッポロ・シティ・ジャズ、札幌国際芸術祭（SIAF）、さっぽろアートステージなど多くの市民に親しまれる取組や既存の文化芸術施設の機能を有効に活用した取組などを進める予定であったが、コロナ禍により、SIAF2020 の中止をはじめ、多くの文化芸術イベントが開催の可否を含めて大きな影響を受け、オンラインでの発信などにも取り組んだが、総じて厳しい期間となった。

ステージ	指標	計画策定時 (H29)	R1	R2	R3	R4	目標値
ステージ1 機会の充実	文化芸術の鑑賞活動への参加割合	82.3%	83.0%	70.7%	74.1%	81.4%	85%
	市内主要イベントへの観客者数	808,365人	692,082人	343,845人	596,122人	623,039人	890,000人
	主要文化芸術施設の利用者数	1,404,384人	2,312,199人	786,906人	961,522人	1,497,678人	2,310,000人

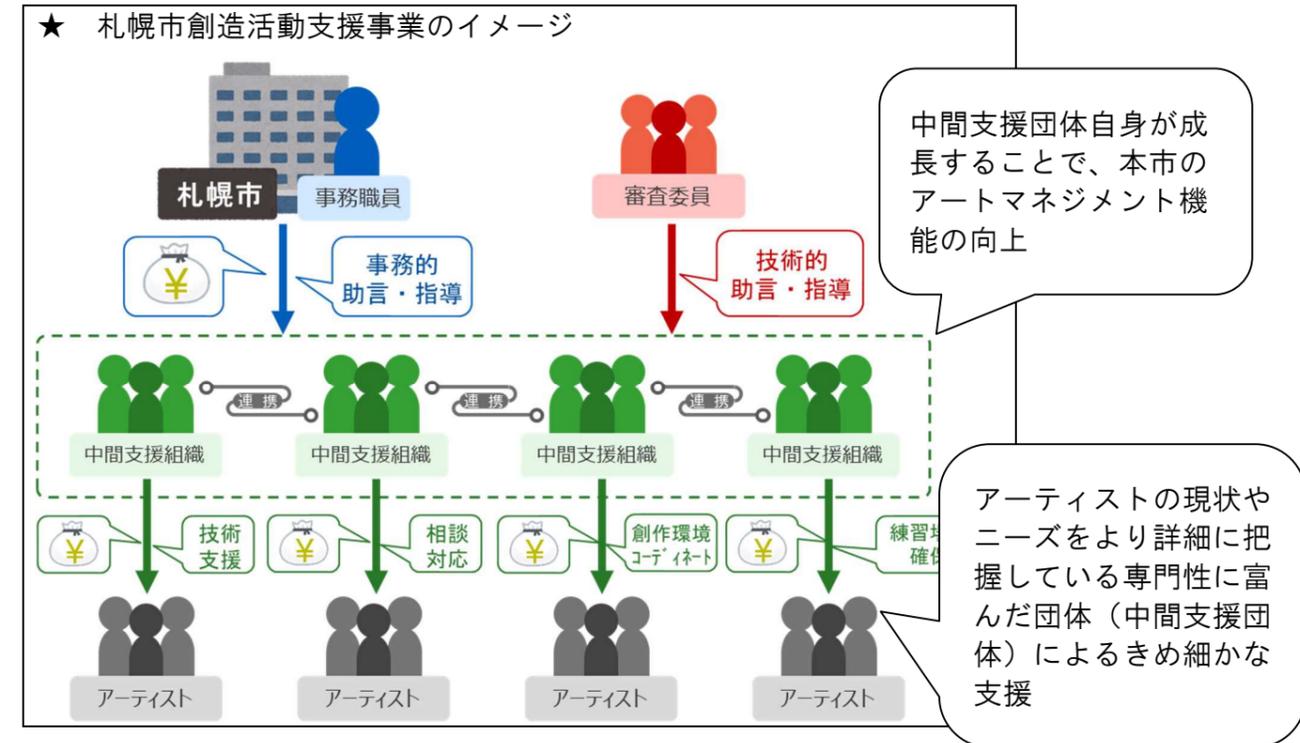
※ 令和元年度分から市民交流プラザの利用者も追加  
 ⇒ すべての指標がコロナ禍の大きな影響を受けており、R4時点では計画策定時の数値までも至っていないものもある状況。

イ ステージ2 未来への布石、育成、支援

- 0さいからのげいじゅつのもりや Kitara ファースト・コンサートやハロー！ミュージアム、子どものミュージカル鑑賞など未就学児から小学生を対象にした文化芸術の鑑賞や体験事業のメニューは一定程度充実している。但し、コロナ禍により一時的に参加人数は激減している（例、R2は Kitara ファースト・コンサートは中止、ハローミュージアムも前年度に比べ参加校数が186校⇒107校に減など）。
- アーティスト支援については、本市の文化芸術の充実に向け、アーティスト等のステップアップやアートマネージャーの育成などを目指したが、コロナ禍により、アーティスト活動そのものを支援するために、発表の際の施設使用料の半額補助を行う「札幌市文化芸術活動再開支援事業」やいわゆる中間支援団体を通じたアーティスト支援を行う「札幌市創造活動支援事業」という新しい事業を構築し、取組を進めた。

ステージ	指標	計画策定時 (H29)	R1	R2	R3	R4	目標値
ステージ2 未来への布石、育成、支援	子どもが自然、社会、文化などの体験をしやすい環境だと思う人の割合	56.8%	60.1%	59.3%	50.1%	48.9%	70%
	文化芸術の鑑賞以外の活動への参加割合	27.5%	31.5%	26.2%	28.3%	32.9%	40%

⇒ 子どもにとって自然、社会、文化などの体験をしやすい環境だと思う人の割合については、減少傾向。一方で、文化芸術の鑑賞以外の活動への参加割合については増加傾向。こちらは文化芸術意識調査において、メディア芸術の参加割合が増えていることが見て取れる（後述）ことから、各種情報端末の普及により文化芸術活動への参加がしやすくなっていることが一因と思われる。



ウ ステージ3 文化の保存・活用

- 保全計画に基づく市有文化財施設の必要な改修などの保存の取組を行うとともに、文化財の保存・活用を主導する関係者で構成する「札幌市歴史文化のまちづくり推進協議会」を主体として、関連文化財群及びストーリーを活かした市内文化財の周遊促進パンフレットを作製するなど文化財の魅力発信に取り組んだ。
- 異分野連携や国内外への魅力発信については、コロナ禍に見舞われ取組が難しかったが、SIAF2024において、本市を代表する冬の観光イベント「さっぽろ雪まつり」や本市創造都市施策とともに推進している「NoMaps」、企業との連携を行うなど、文化芸術が有する価値を広く発揮する取組を進めている。

ステージ	指標	計画策定時 (H29)	R1	R2	R3	R4	目標値
ステージ3 文化の保存・活用	文化財関連施設利用者数	275,608人	399,664人	170,990人	142,401人	378,523	380,000人
	クリエイティブ産業の従事者数	35,934人			42,572人		39,000人
	来札観光客数	15,271千人	15,260千人	5,710千人	7,890千人	集計中	18,000千人

※ 平成30年度から丘珠縄文遺跡の利用者が追加  
 ※ クリエイティブ産業人材の従事者数は経済センサスにおいて5年に一度調査を実施  
 ⇒ 施設利用者数や来札観光客数は、コロナ禍期間中は大きく減少しているが、現在は回復傾向。クリエイティブ産業人材の従事者数は増加しており、目標値を達成。

エ ステージ4 視点の検討

- 第2期に引き続き「大通情報ステーション」による文化芸術情報の発信を行ってきたが、コロナ禍によるイベント数の減少により、発信数も減少。加えて、情報収集や発信がSNSにシフトしていることも減少の一因と考えられる（後述）。
- また、指定文化財や登録文化財、ふるさと文化百選などのアーカイブ化を進め、インターネット上で閲覧できるよう取組を進めた。
- 文化芸術活動を活性化させるための取組としては、新型コロナウイルスの感染拡大をきっかけとして、市と文化芸術関係者等の中で意見交換を行うための「札幌文化芸術未来会議」を設置し、令和2年11月～令和4年2月にかけて計10回の会議を開催し、短期的な支援と中長期的な支援の在り方について議論を行い、前述の「札幌市創造活動支援事業」の創出につながった。

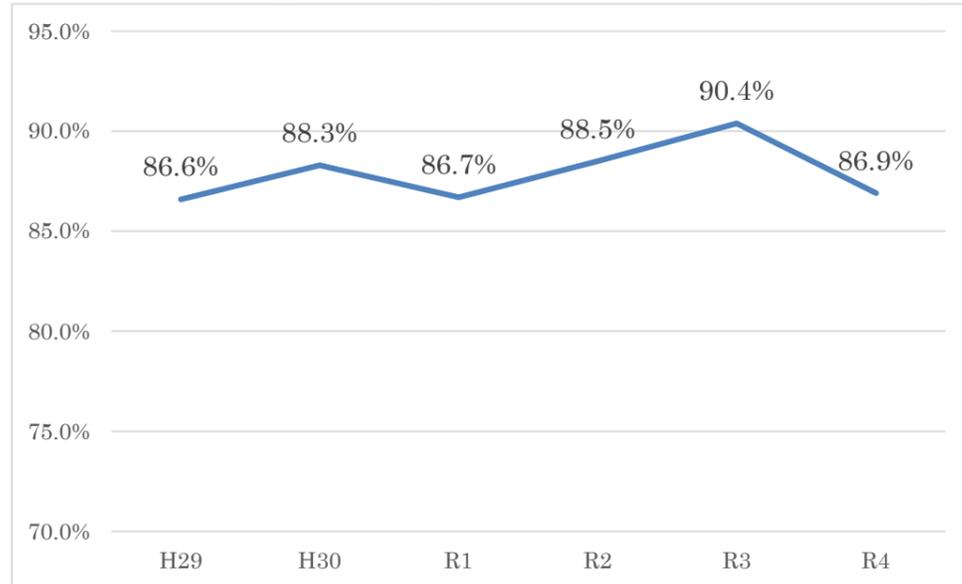
ステージ	指標	計画策定時 (H29)	R1	R2	R3	R4	目標値
ステージ4 視点の検討	大通情報ステーションで情報発信した市内開催の文化芸術イベント数	3,915件 (※)	4,506件	1,768件	1,245件	1,970件	10,000件

※ 第3期計画の実績値として情報発信された文化芸術イベント数が6,820件とされていたが、他の分野の発信も含まれており、文化芸術に絞ると3,915件が正しい。

(2) 文化芸術意識調査（第3期計画中的特徴的な結果）

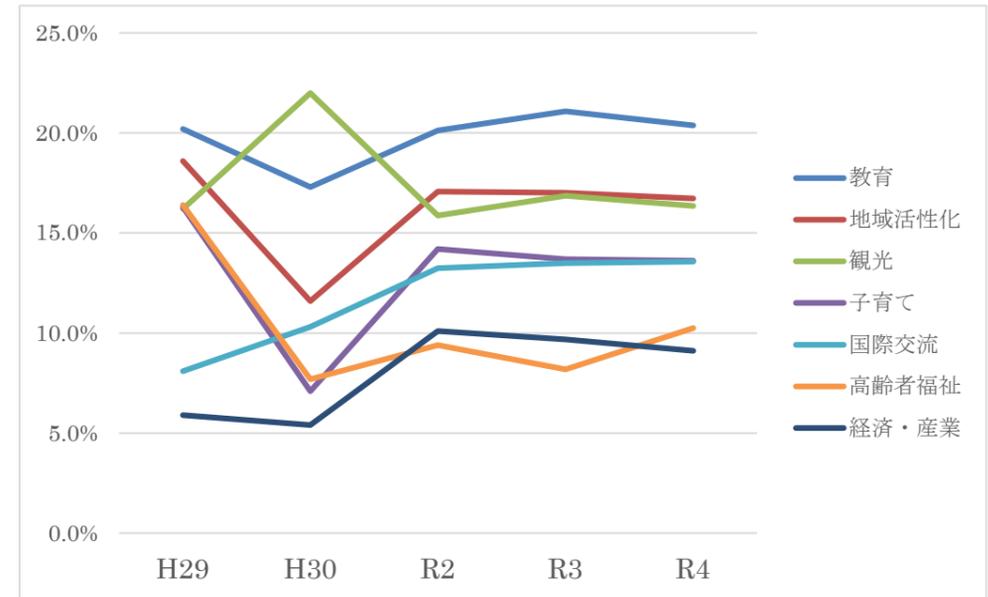
★ 文化芸術意識調査とは  
平成26年度から毎年実施している意識調査であり、15歳以上の市民から無作為抽出した5,000人に対する郵送アンケート

○ 文化芸術活動の重要度に関する認識（大切と答えた人の割合）



⇒ 文化芸術活動が大切と回答した市民の率は前回計画策定時点から継続的に85%を超えており、コロナ禍の中でも市民における文化芸術の重要性は損なわれていない。

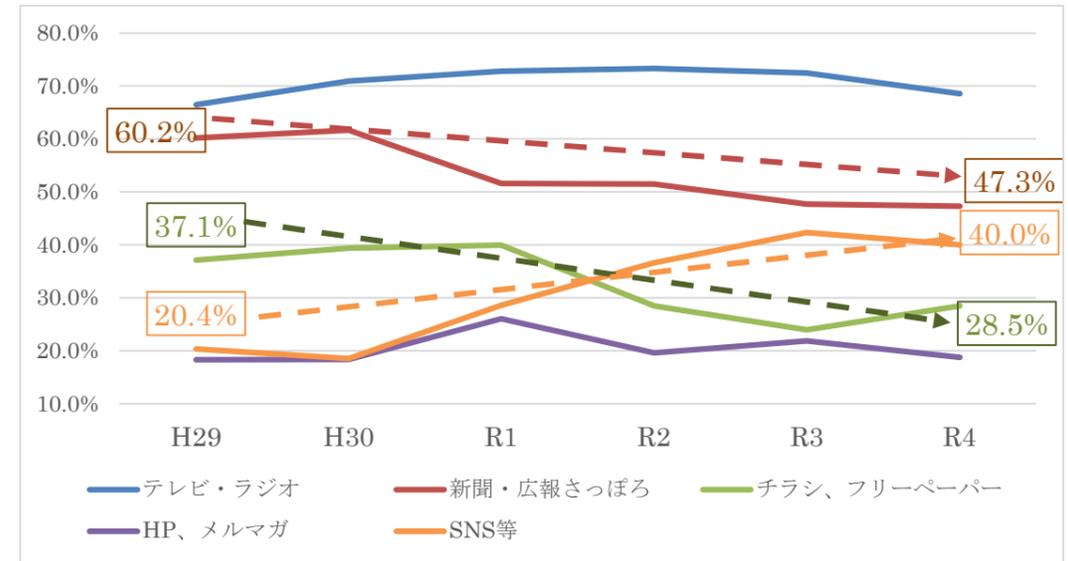
○ 文化芸術が連携すべき分野



※R1は上記設問なし。

⇒ 市民が考える文化芸術が連携すべき分野は、教育、地域活性化、観光が上位にあり、特に教育分野との連携を望む声大きい。

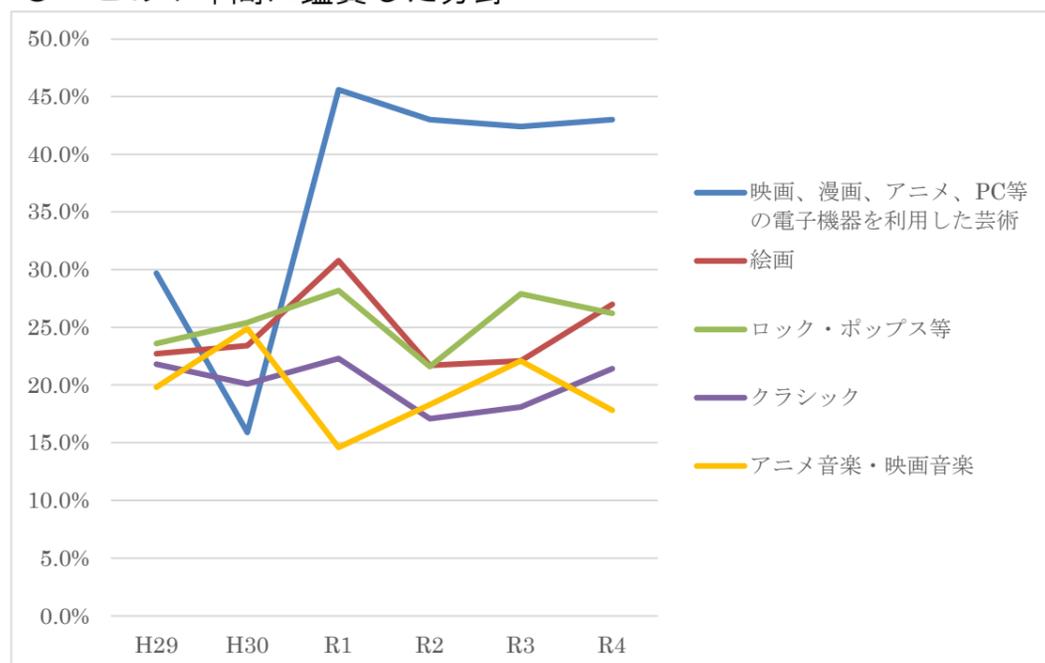
○ 文化芸術関連の情報取得の媒体



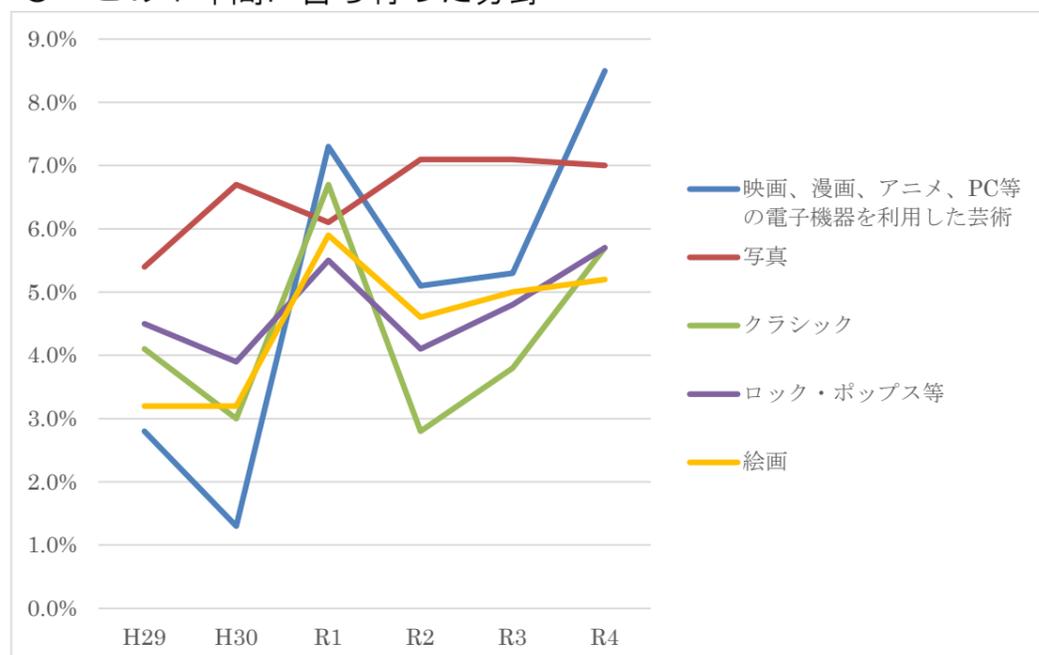
⇒ 情報取得の媒体として、紙媒体の利用が低下傾向。一方でユーチューブを含むSNS等による情報取得がH29比で倍増しており、SNS等の重要性が増している。

※ テレビだけの場合 H29：67.6%⇒R4:65.1%、新聞だけの場合 H29：45.3%⇒R4:34.2%

○ この1年間に鑑賞した分野

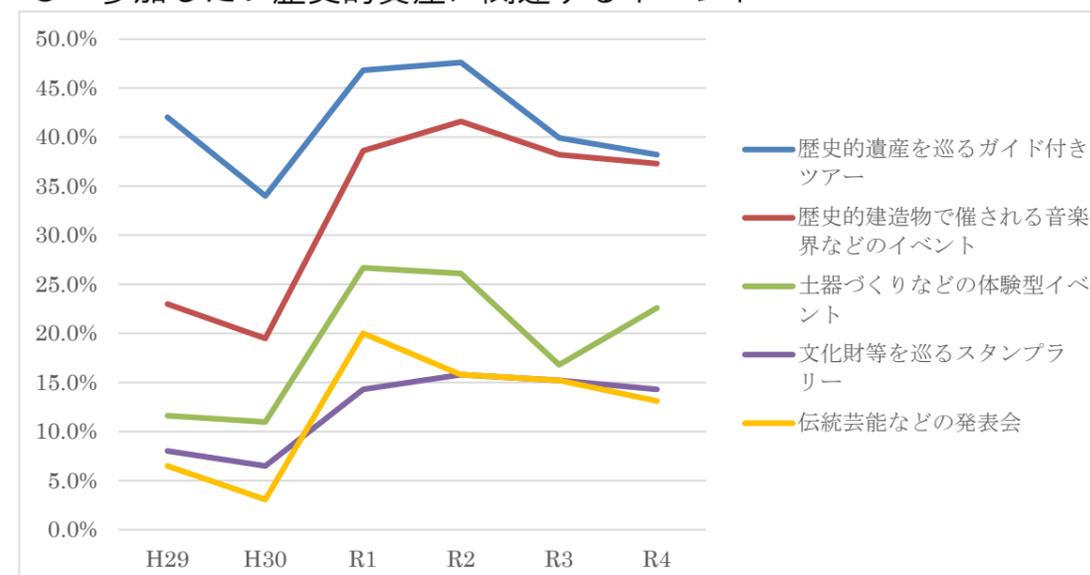


○ この1年間に自ら行った分野



⇒ 市民が鑑賞した分野や活動した分野について、映画、漫画、アニメ、PC等の電子機器を利用した芸術といったいわゆるメディアアーツが増えている。

○ 参加したい歴史的資産に関連するイベント



⇒ 歴史的遺産を巡るガイド付きツアーが絶えず1位であり、ストーリーを活かした魅力発信が効果的と考えられる。

(3) 国の文化芸術推進基本計画について(第2期 令和5年3月24日閣議決定)

※ 概要版別紙2のとおり。

○ 第1期計画の評価

計画期間当初は一定の進捗があったが、令和2年以降は、新型コロナの影響を大きく受け、進捗が芳しくない、評価することが適切ではないといった状況。

○ 第1期計画を踏まえた主な課題

- ・ 文化芸術の担い手の活動基盤が弱いとあり、安定的に活動を継続することができる環境の整備や自律的・持続的な発展に資する取組の強化が課題
  - ・ アート市場の活性化や文化観光の推進について、市場の回復及び更なる振興が課題
  - ・ 障がい者をはじめ、誰でも文化芸術に触れることができる環境の充実が課題
  - ・ 文化芸術の担い手を確保するための方策を多面的・長期的に検討することが課題
- ⇒ こうした課題を踏まえ、第1期の目標を踏襲しながら重点取組項目を整理。

4 第4期計画の方向性(案)

(1) 現行計画の考え方の継承・再構築

第3期の多くの期間がコロナ禍に見舞われ、評価検証が難しいこと、事業の継続性も大切であることから、現行計画の基本的な考え方を土台としながら見直しを進める。

(2) コロナ禍を含めた状況変化、国の計画の変更点などを踏まえた見直し

コロナ禍を含めた札幌の文化芸術を取り巻く状況変化、国の計画の変更点については、本計画見直しにとって必要な視点と想定。

(3) 重点的に取り組む項目の整理

第4期においてはメリハリをつけた取組となるよう重点的に取り組む項目の整理も必要と想定。